

倫理 第18回「日本仏教史②～鎌倉新仏教～」

○今回のポイント

鎌倉新仏教は、個人救済、一つの行への集中、実践可能な易行、社会的弱者の救済により庶民の間にも広まった！！

1. 阿弥陀仏への信仰

(1)旧来の天台宗の枠を超えた独自の教え→鎌倉新仏教

(2)[①]の思想 浄土宗

- ・源信の『往生要集』に影響され、念仏に惹かれる
- ↓
- ・『選択本願念仏集』

末法の世に生まれ、素質・能力に劣る

↓

自力の修行によって悟りを得ようとする教え(聖道門)は困難

↓

阿弥陀仏の働きである他力を信じ、浄土に生まれ、後生に悟りを得る教え(浄土門)に頼る

↓

浄土に往生するための手立てとして、他の修行方法を捨てて、もっぱら念仏を修する

↓

[③]！！

[②]ってどんなホトケ？

かつては法蔵という菩薩。一斉衆生を救おうと願い、成就しない間は仏にならないと誓う。ついには誓願を成就して仏となる。現在は西方極楽世界で衆生を救う。

(3).[④]の思想…法然の教えに影響され、踊念仏を広げる。[⑤]の開祖。

- ・教化のため諸国を遊行したので遊行上人、生活の束縛を捨てたので捨聖とよばれる。

2. 絶対他力の信仰

・[⑤]…浄土真宗の開祖

- ・比叡山で修行→どれだけ自力を尽くしても、この人生のあいだに悟りをえることはできない

↓

・[⑥]

親鸞が考える阿弥陀仏のイメージ

→阿弥陀仏は、悪人を助けようとする請願([⑦])を立てる

→阿弥陀仏の意図は「どんなに善をなそうとしてもなし得ないと知り、根深い煩惱を嘆きつつ、阿弥陀仏のはたらき([⑧])をたのむヒト(悪人)の救済」

・「善人なほもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」(唯円『歎異抄』より)

→ 悪人こそ往生の条件をもっとも適切に備えているのであり、自力で善をなし得ると思い修行に励むヒト(善人)以上に悪人の往生は疑いない。

・[⑨]…往生を実現する阿弥陀仏による他力のはたらき

→信も念仏も自力ではなく、自力を捨て自己を阿弥陀仏にゆだねると、阿弥陀仏のはたらきがあらわれて、信や念仏となる

3. 坐禅における救済

(1)道元、末法思想や他力の信仰を批判し、自力救済を追究する。
→〔10〕…端坐して心を統一し、対象を観ずる修行。

栄西の臨済宗
臨済宗ではただ坐禅するだけではなく公案という問題を禅問答した。

(2)〔11〕を伝えるまでの道のり

→ 古代インドのヨーガ→中国の禅宗→栄西が入宋して臨済宗を伝える→栄西門下の明全に師事し入宋→如浄に師事し曹洞宗を伝える

(3)道元の基本的な考え

・人は本来、悟りを備えているので、末法思想は人民教化の仮の手段にすぎず、自己をみかぎりひたすら後生に期待するのは誤り

↓

・悟りは修行せねばならない → 悟りを体得するには！？ → 「坐禅」

(4)坐禅とは修行であり悟りの体得でもある

・〔12〕…修行とは、ひたすら坐禅すること

・〔13〕…身も心もつくして坐りぬく時、欲望など一切の束縛から解放されて、心身が自在の境地に達すること。すると目前の世界がそのまま悟りの世界となる。

・〔14〕…坐禅の「修」行と悟りの体得である「証」が不二一体であること
道元は仏教の神髄(〔15〕)は修証にあると信じる。

4. 法華経への信仰

・〔16〕…『法華経』の新たな解釈により日蓮宗の開祖となる

・法華経の重視

・末法の世に依るべき唯一の経典で、釈迦の究極の教えであり、題目には釈迦の備える功德の全体が込められている

↓

・〔17〕（「南無妙法蓮華経」と唱えること）すれば、だれでも仏になれるよ！！

・『〔18〕』…『法華経』が興隆すれば、災いが払われ国土の安穏が実現するよ！！

→〔19〕（念仏無間、禅天魔、真言亡国、律国賊）で他宗を排撃し為政者に改心を迫る。

↓

弾圧や迫害などの苦難が日蓮を「〔20〕」としての自覚を深め、みずから菩薩となぞらえ、現実社会を万人が救済される仏国土としようとした。

5. その他の教え

(1)〔21〕…戒律と密教を実修し、真言律宗により病者の救済や橋の修築に励む。

(2)〔22〕…京都梶尾高山寺で華嚴宗を復興。人々の教化に努める。